

## ティーチング・ステートメント

所属 横浜商科大学

名前 田中 聖華

作成日 2020年10月25日

### 【責任】

商学部商学科に所属し、専門科目である人的資源管理、キャリアデザインを中心とした教育・研究活動を行っている。主たる教育活動では、キャリア形成（2，3年次全学必修科目、2020年度入学生からは2年次「キャリアデザイン1，2」3年次からは「キャリアデザイン3，4」に変更）、人的資源管理論（選択科目）、企業インターンシップ（選択科目）を担当している。「キャリア形成」（新カリキュラム「キャリアデザイン」）、「企業インターンシップ A 及び B」では、授業コーディネーター、科目統括として授業内容の企画、授業資料の作成、実施要領の作成等を一括して担っている。

### 【理念】

教育理念は、次の2点を挙げたい。

1. 学生には、大学生活を通じて「学び」を体得し、その方法を応用することによって、社会に適応できる人材になってほしい。

学んだ知識を社会に役立てることは当然必要であるが、変化の激しい現代社会においては、自分が生きている間にも、得た知識は陳腐化する可能性が高い。また、知識として知っているだけで実践しなければ、社会における実効性が証明できず、知識の有用性に結び付かないことも多い。これに対して、実際の学びの中から「学び」、すなわちここでは、「学ぶ方法」、あるいは「学ぶ姿勢」を体得していれば、必要な知識の更新や、実践したときの検証を次の学びに繋げていくことができると考えるからである。

2. 自分自身については、学生一人一人の個性を尊重した支援をしたい。

同じ授業で同時に学ぶ内容や知識は同じであっても、その過程で感じることや体感することは必ずしも同じではない。それは、それまでの道のりが個別に違っていただけでもあり、またその後の個人のキャリアデザインへの働きかけ方も異なるからである。キャリアは社会的背景に影響されつつも、高度に個別的なものであり、ライフキャリアにおいては大学生という発展途上のステージであるからこそ、個別支援の視点が重要だと考えるからである。

### 【方針・方法】

上記の理念を実現するために、次の方針に基づき、続く方法をもって教育を実践している。

理念1についての方針

(1) 学生から社会人になるための意識転換を図る。

社会人としての生活は、学生時代までの消費者意識から、生産者意識への意識の大転換

である。社会では、さまざまな考えや価値観があり、自分が合う人、好きな人だけの付き合いでは仕事が成立しない。仕事を通じて社会に貢献するために、社会から信用されることの第一歩として、授業の開始時間を厳守すること、終了時間を超過しない授業タイムテーブルを作成すること、こちらから進んで挨拶をすることを体現し、学生にもそれを実践するよう指導する。さらに課題の提出期限を厳守すること、遅刻、欠席理由を口頭で報告することなどを要請し、社会人としての礼儀を重んじ、それを当たり前実践できるように習慣づけるよう指導している。

また、授業は開始時のくじ引きにより、ほぼ毎回異なる席に着席させ、固定されない隣同士や小グループメンバーと意見交換を実施したり、グループディスカッション、グループワーク、成果発表といった手法を多用している。

### (2) 紙ベースでの書類管理を継続する。

IT ツールが劇的に発達する現代においても、未だ企業内、特に採用活動等では紙ベースの管理が多く残る。このことに対応するため、課題や授業中ワークシートをあえて紙で配布し、回収、返却、保管させる方法も継続していく。

### (3) 「学び」の定着作業を行う。

講義の聞きっぱなし、ワークのやりっぱなしにならないよう次のことを実践している。

- ・期初において、シラバスの授業計画を確認し、1 回毎に、「その授業を受けた後、自分がどうなっていることを期待するか」を記録させる。
- ・毎回の授業の冒頭で、期初の「自分への期待」を意識させて導入を図る。
- ・期末のまとめでは、授業を受けた後の「自分（の変化）について気づいたこと」を毎回の授業について振り返らせている。

これらの内容は、授業の感想ではなく、あくまでも学生自らの変化（成長）について自ら感じ、考えたことを、それにいたった方法と同時に振り返ることによって、理念1を実現することにつながると考える。

- ・人的資源管理論においては、学んだ知識の定着のための小テストを Google Classroom で提供するとともに、学生自身がその授業回で最も印象に残った Key Word を、自ら調べなおしまとめる課題を課している。

## 理念2 についての方針

### (1) 個々人の現在地、状況を把握する機会を作り出し、実践する。

- ・個人の名前を早く覚え、顔と一致させるため、呼名によって出欠確認する。これを継続して毎回行うことで、学生その日の状況（体調や機嫌、授業への姿勢など）を把握することができ、状況に応じた対応を探ることができる。
- ・自分への気づきについての学生のコメントシートの控えを保管することにより、状況の振り返りに役立てる。
- ・ワーク作業中に巡回し、ワークを観察しつつ個別アドバイスや質問のやり取りを行う。

## 【評価・成果】

- ・学生が遅刻、欠席理由の届け出を直接口頭で自発的に行うようになった。
- ・紙ベースでの提出に学生の意識が向けられるようになった。(忘れない、失くさない、遅れない。)
- ・仕事場面でのグループディスカッションにおける企業目線での評価視点を教えることにより、グループディスカッションの取り組み姿勢が積極的になった。特に、それまで発言が苦手だった学生の発言意欲が高まったり、グループでの役割意識が向上したりした。また、グループメンバー間の協力姿勢も格段に向上した。(事後振り返りシートより)
- ・キャリア目標を明確にさせることで、学生の学生生活における自分の成長への期待値が向上した。「キャリアマニフェスト宣言」プレゼンテーション、企業インターンシップ報告書および実習後調査より)
- ・学生生活の比較的早期(2年次より)から就業意識、就業意欲が高まった。(協力企業様アンケート、授業振り返りシートより)
- ・採用選考模擬面接の効果が高まった。(事後振り返りシートより)
- ・学内業界研究会での、学生のビジネスマナーが向上した。(参加企業様アンケートより)
- ・早い段階における内定獲得が増え、最終的な内定率、就職率も向上した。(2018年度、2019年度)

## 【目標】

### 短期目標

- ・方針1について、さらに意識転換がスムーズにできるようになるために、消費者意識と生産者意識の事例を用いて学生自身が考える授業運営を企画する。(2020年度)
- ・毎回の授業冒頭にその時間の評価視点をルーブリックで説明し、取り組みの動機づけに活用する。(2020年度)
- ・ルーブリックを用いて学生自身の自己評価を促し、取り組み姿勢の向上に取り組む。(2020年度)
- ・毎回の授業の目的が学生に伝わっているかを検証する。(2020年度)

### 長期目標

- ・主体的に物事に取り組み、自分の課題意識を仲間と協力して解決していく行動ができる学生を育てる。
- ・自分に自信と誇りをもち、社会貢献する意欲をもった卒業生を送り出す。

以上